

施策マネジメントシート1(23年度目標達成度評価)

作成日 平成 24 年 5 月 30 日
更新日 平成 24 年 7 月 10 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんなで元気に笑顔あふれるまちづくり	施策統括部	健康福祉部	部長名	古武城 卓
	施策No.	17	施策名	障がい者の自立と社会参加の促進	施策主管課	福祉課	課長名	大鷲 和弘
					関係課	子育て支援課、健康づくり推進課、高齢者支援課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 障がい者・児(身体、知的、精神)	➡
② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか) 適切な障がい福祉サービスを受けながら、自立した日常生活を営むことができる	

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

A.障がい福祉サービス費支払件数(介護給付費、訓練等給付費、旧法施設支援によるサービスの利用件数)により把握する。

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 障がい者・児数	人
B	
C	
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 障がい福祉サービス利用件数	件
B	
C	
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名				単位	数値区分	21年度現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象指標	A	人	見込み値				2,636	2,676	2,716	2,756	2,796
			実績値				3,044				
	B		見込み値								
			実績値								
	C		見込み値								
			実績値								
成果指標	A	件	成り行き値				3,655	3,728	3,802	3,878	3,955
			目標値				3,691	3,784	3,879	3,976	4,077
			実績値	3,514	4,969						
	B		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	C		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	D		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	E		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	F		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
事務事業数				本数		10	10	9	9	9	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			343,173	376,419	389,208	406,586	424,825
			都道府県支出金	千円			224,352	245,723	246,295	256,130	266,547
			地方債	千円			0	0	0	0	0
			その他	千円			855	424	0	0	0
			繰入金	千円			0	0	0	0	0
			一般財源	千円			252,771	251,598	258,990	268,447	278,465
			事業費計 (A)	千円			821,151	874,164	894,493	931,163	969,837
			(A)のうち指定経費	千円			792,396	859,276	873,503	829,442	867,316
			(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円			162	181	183	183	183
			延べ業務時間	時間			8,292	7,716	7,636	7,636	7,636
			人件費計 (B)	千円			33,478	31,786	31,457	31,457	31,457
			トータルコスト(A)+(B)	千円			854,629	905,950	925,950	962,620	1,001,294
	人件費										

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠 (水準の理由と前提条件)	A: 成果指標の実績値をみると、平成20年度は2,826件で平成19年度に比べ2%の増加であるが、平成21年度は3,514件と平成20年度に比べ24%増加している。平成21年度に大幅に件数が伸びているのは、施設サービスが旧法施設支援から新体系へ移行中であり、新体系では日中と夜間のサービスを分けてカウントするため件数が伸びている。障害者自立支援法に基づく障がい福祉サービスは平成18年10月から開始されたもので、実績値が平成19年度分からのデータとなるため今後の成り行き値の見込みが困難な状況であるが、平成21年度を基本に2%程度増加すると想定して27年度3,955件と設定した。目標値については、障がい者の自立した日常生活及び社会参加を支援するため、今後も障がい者が必要とする障がい福祉サービスが適切に受けられるよう、相談支援事業所との連携をより強化し、さらに制度の周知を図ることで平成20年度の伸び率を維持するよう平成27年度の目標を4,077件として設定した。
基本計画期間における施策の方針	①障がい者へのきめ細やかな自立支援対策の推進。

施策マネジメントシート2(23年度目標達成度評価)

障がい者の自立と社会参加の
促進

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・市民は、障がい者を理解して支える。
 - ・障がい者は、地域の活動に参加する。また、能力及び適性に応じて就労する。
 - ・事業所は、障がい者の雇用を進める。
 - ・地域、団体は、サークル活動や地域活動への参加を促す。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・合志市障害者計画に基づき、障がい者福祉施策を推進する。
- ・障がい者団体の活動を支援し、社会参加を促進する。

【2】施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成27年度を見越して)

- ・障がい者福祉施策の対象として捉えられる範囲が拡大(肝臓機能障害発達障害、高次脳機能障害など)された。
 - ・心筋梗塞や脳梗塞、人工透析などが増えており、今後も障がい者手帳所持者が増えることが予想される。
 - ・平成23年度に障害者基本法に基づく障がい者計画及び障害者自立支援法に基づく障がい福祉計画を策定した。今後はこの計画に基づき各事業の進行管理を行っていくところである。
 - ・障がい者福祉施策は、平成18年に1割の自己負担を原則とする障害者自立支援法が施行されたが、応益負担へと変更されたことにより、論議がおこった。
- 平成23年度、障害者自立支援法が一部改正され、名称が障害者総合支援法となり平成25年4月より施行される。

【3】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・議会からは障がい者の就労支援及び社会参加を進める必要がある。
- ・障がい者の社会参加を促進していくためにも、人権教育の啓発・広報活動を推進し、差別や偏見の解消を進める必要がある。
- ・障がい者の人権を守るため、権利擁護や成年後見人制度を充実する必要がある。

【平成23年度の施策評価(22年度振り返り)における総合政策審議会意見】

1. 合志市における高齢者や障がい者の支援体制は社協を中心として充実しているが、実施している事業に参加する対象者が少ない。民生委員や各種サポーターなど支援活動を行っている方々による啓発活動を強化すること。
2. 障がい者が就労するために必要な技能を修得する場の充実を図ること。

【平成23年度の施策評価(22年度振り返り)における議会意見】

1. 障がい者の社会参加を促進するため、予算を必要としない具体策の検討も必要である。
2. 障がい者の支援は、行政だけでなく、地域で参加できる仕組みづくりが重要である。

4 施策の評価

【1】施策の目標達成度(23年度目標と実績との比較)

A → ○【障がい福祉サービス利用件数】
： 目標値3,691件に対し、実績値4,969件であり、目標は達成できた。

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A: 障害福祉制度の改正によって利用形態が変わったことと、対象者そのものが増加したことやサービスの周知等で件数が伸びたものと思われる。

※○: 目標達成 △: 目標をほぼ達成(－5%程度) ×: 目標を未達成

【2】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

- (1) 平成23年度経営方針である、①「障がい者の自立を支援するため、障がい福祉施設の製品販売を引き続き支援する。」については、市役所西合志庁舎内での毎日のお昼のパン等の販売場所や市の各種事業等での販売場所の提供を行なうことで、販売を促進し、障がい者の自立支援を行なった。
- ②「合志市就労支援事業に取り組む。」については、就労に関する委員会を設置し、障がい者の雇用や就労につながる支援を行なう事業を含め、社会活動又は地域活動を促進する事業を対象とする補助金交付要綱を定め、2団体に対し補助金を交付し、障がい者の社会活動の支援を行なった。

- (2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成23年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、自立支援給付事業と地域生活支援事業があげられ、貢献した事務事業には障害者自立支援医療費支給事業、福祉手当支給事業、重度心身障害者医療費助成事業があげられた。

【3】 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・今後も障がい者(児)が地域において自立した日常生活が営むことができるよう支援体制の充実を図る必要があり、障がい者手帳所持者が増加傾向にあるため、サービス利用者は増加すると予想される。サービスの提供量と財源の確保が課題である。
- ・障害者自立支援法が廃止され新法の制定が予定されており、障害者自立支援法の施行時にも膨大な事務量への対応が必要であったため、今後の制度改正に伴う事務作業への対応についても万全を期する必要がある。

5 施策の23年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成24年7月10日)

- ・障がい福祉施設の製品販売を引き続き支援していく必要がある。
- ・障がい者(児)が地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援体制を引き続き図っていく必要がある。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成24年7月25日、8月3日、8日まとめ)

- ・法改正等による変更点への早急な対応を行ない、障がい者へ積極的に情報提供すること。
- ・障がい者へのきめ細やかな支援を行なうこと。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成24年9月21日)

- ・障がい者の新たな社会参加の場を拡充するために、市のイベントだけでなく地域の祭りや文化祭などで作品の展示や販売を行うなど市民の協力を得るように。
- ・障がい者家庭の生活困窮など、実態把握に努める。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成25年度合志市経営方針(平成24年10月10日)

1. 各種団体と連携し、障がい者の自立支援を行なう。
2. 市内企業と連携した合志市障がい者就労支援事業に取り組む。

基本事業名			51 障がい者への在宅福祉サービスの充実					基本事業担当課		福祉課
対象		障がい者、児				意図		住み慣れた地域のなかで生活できる		
成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
A	訪問系サービス利用件数	件	(成り行き値) 目標値		(448) 454	(454) 463	(460) 472	(466) 481	(473) 490	
			実績値	436	592					
B			(成り行き値) 目標値							
			実績値							
C			(成り行き値) 目標値							
			実績値							

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 今後も訪問系サービスが適切に受けられるよう、サービス提供事業所や相談支援事業所との連携を図り平成27年度の目標を490件として設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

- ・人口増とともに、障がい者の数も増えつつあり、サービスを行う事業者も増え、利用者についても増えている。
- ・課題は、利用増に伴う公費の負担も伸びてきており予算の確保が必要となる。

基本事業名			52 社会参加の促進と就労支援体制の充実					基本事業担当課		福祉課
対象		障がい者、児				意図		・社会参加ができる ・就労支援体制の確保		
成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
A	社会参加型地域生活支援事業利用件数	件	(成り行き値) 目標値		(334) 338	(336) 341	(337) 344	(339) 347	(341) 350	
			実績値	332	337					
B	就労系サービス利用件数	件	(成り行き値) 目標値		(885) 896	(955) 974	(878) 1058	(1,031) 1,150	(1,113) 1,250	
			実績値	759	1279					
C			(成り行き値) 目標値							
			実績値							

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 社会参加型地域生活支援事業の成果指標の実績値をみると、平成21年度は332件と平成20年度に比べ7%増加しているが、これは移動支援事業の利用件数の増加が主なものであり、コミュニケーション事業では利用者の減少により144件(平成20年度)→124件(平成21年度)と14%減少しているため成り行き値についてはほぼ現状の件数で推移すると思われるため平成27年度を341件とした。目標値については、5%程度の増加を図るため平成27年度を350件とした。

B: 毎年8.5%程度の増加を維持するとして、平成27年度の目標を1,250件として設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

- ・人口増とともに、障がい者の数も増えつつあり、サービスを行う事業者も増え、利用者についても増えている。
- ・課題は、利用増に伴う公費の負担も伸びてきており予算の確保が必要となる。

基本事業名								基本事業担当課		
対象						意図				
成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
A			(成り行き値) 目標値							
			実績値							
B			(成り行き値) 目標値							
			実績値							
C			(成り行き値) 目標値							
			実績値							

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題